

【専門基礎分野】

科目名	病理学Ⅳ (腎・泌尿器、生殖器、免疫)	講師名	岡山医療センター医師 A (8) 岡山医療センター医師 B (2)	学 年	1	履 修 期	第2学期
単 位	1 単位						
時間数	30 時間 (内 10 時間)						
授業概要	病因と病変の特徴及び系統別疾患の病態・治療・検査について学ぶ。						
授業科目目標	1. 腎・泌尿器系の疾病による形態や機能代謝の異常の基礎的知識及び検査、治療について理解できる。						
授業計画	<p><腎・泌尿器系の疾患></p> <p>1 回：症状とその病態生理 尿の異常、排尿の異常、浮腫、水と電解質の異常、高血圧、循環器系の異常 血液の異常、尿毒症、疼痛 (圧痛、仙痛)、腫脹・腫瘤、その他の症状</p> <p>2 回：診断・検査・治療・処置 透析療法、腎移植など</p> <p>3～4 回：疾患の理解 腎不全 原発性糸球体腎炎 全身性疾患による腎障害 間質性腎炎 腎血管性病変 尿細管機能異常 尿路の通過障害と機能障害 腎・尿路の腫瘍など</p> <p>5 回：まとめ 1 H 終了試験 1 H</p>						
評価方法	筆記試験						
テキスト	1. 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [8] 腎・泌尿器, 医学書院.						
学生への メッセージ	患者にあった看護実践をしていくためには、疾患の原因、症状、治療など病態生理を理解しておくことが重要です。解剖生理学の知識を基盤にして講義に臨んでください。 【関連科目】解剖生理学Ⅳ、病理学総論						

【専門基礎分野】

科目名	病理学Ⅳ (腎・泌尿器、生殖器、免疫)	講師名	岡山医療センター医師	学 年	1	履 修 期	第2学期
単 位	1単位						
時間数	30時間 (内10時間)						
授業概要	病因と病変の特徴及び系統別疾患の病態・治療・検査について学ぶ。						
授業科目目標	1. 女性生殖器系の疾病による形態や機能代謝の異常の基礎的知識及び検査、治療について理解できる。						
授業計画	<p><女性生殖器系の疾患></p> <p>1回：症状とその病態生理 出血・帯下・疼痛・発熱・下腹部膨隆・腫瘤感、外陰部搔痒感・排尿障害 自律神経症状、不定愁訴</p> <p>2回：診察・検査と治療・処置</p> <p>3～4回：疾患の理解</p> <p>1) 性染色体異常 2) 外陰・膣・子宮・卵管・卵巣の疾患・骨盤内炎症性疾患・乳腺疾患 3) 月経異常・月経随伴症状・更年期障害・不妊症・不育症 4) 性感染症</p> <p>5回：まとめ 1H 終了試験 1H</p>						
評価方法	筆記試験						
テキスト	1. 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [9] 女性生殖器, 医学書院.						
学生へのメッセージ	患者にあった看護実践をしていくためには、疾患の原因、症状、治療など病態生理を理解しておくことが重要です。解剖生理学の知識を基盤にして講義に臨んでください。 【関連科目】解剖生理学Ⅳ、病理学総論						

【専門基礎分野】

科目名	病理学Ⅳ (腎・泌尿器、生殖器、免疫)	講師名	岡山医療センター医師 A (4)	学年	1	履修期	第2学期
単 位	1 単位		岡山医療センター医師 B (4)				
時間数	30 時間 (内 10 時間)		岡山医療センター医師 C (2)				
授業概要	病因と病変の特徴及び系統別疾患の病態・治療・検査について学ぶ。						
授業科目目標	1. 免疫系の疾病による形態や機能代謝の異常の基礎的知識及び検査、治療について理解できる。						
授業計画	<p>1 回：免疫系の疾患（感染症）</p> <p>1) 症状とその病態生理 発熱・発疹・下痢</p> <p>2) 診断・検査</p> <p>3) 治療・予防</p> <p>4) 疾患の理解 敗血症・髄膜炎・気道感染症</p> <p>2～3 回：免疫系の疾患（アレルギー）</p> <p>1) 症状とその病態生理</p> <p>2) 診断・検査</p> <p>3) 治療・予防</p> <p>4) 疾患の理解 アナフィラキシー・食物アレルギー・薬物アレルギー</p> <p>4 回：膠原病</p> <p>1) 症状とその病態生理</p> <p>2) 診断・検査</p> <p>3) 治療・予防</p> <p>5 回：まとめ 1 H 終了試験 1 H</p>						
評価方法	筆記試験						
テキスト	1. 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [11]アレルギー 膠原病 感染症, 医学書院.						
学生へのメッセージ	患者にあった看護実践をしていくためには、疾患の原因、症状、治療など病態生理を理解しておくことが重要です。解剖生理学の知識を基盤にして講義に臨んでください。 【関連科目】解剖生理学Ⅱ、病理学総論、微生物学						